

環境業界研究！スーパーエコタウン見学ツアーの開催について（報告）

1 名 称 環境業界研究！スーパーエコタウン見学ツアー～資源循環分野の仕事を研究しよう～

2 日 時 平成30年9月5日（水） 9時30分から16時30分まで

3 参加者数 13名

（廃棄物処理業界への就職を考えている又は興味のある大学生・大学院生）

区分	募集人数	申込人数	参加人数	参加率
合計	20名	21名	13名	61.9%

4 開催内容

9:30	集合	東京レポート駅 集合・出発
10:00	開会挨拶	公益財団法人東京都環境公社 常務理事 齊藤 和弥
10:05	業界研究講義	「循環型社会の形成に向けた産業廃棄物処理業の役割」
		公益財団法人東京都環境公社 常務理事 齊藤 和弥
10:40	施設見学	東京臨海リサイクルパワー株式会社（ガス化溶融等発電施設）
12:00	昼食休憩	昼食休憩（移動時間含む）
13:10	施設見学	バイオエナジー株式会社（食品廃棄物バイオマス発電施設）
14:20	施設見学	株式会社タケエイ（建設混合廃棄物等リサイクル施設）
15:30	意見交換会	先輩社員との意見交換会
16:30	終了	東京レポート駅 到着・解散

5 使用資料 <配布物>

(1) 次第	1部
(2) 業界研究講義資料	1部
(3) アンケート	1部
(4) スーパーエコタウン見学会 リーフレット	1部
(5) その他各社資料（施設見学時）	各1部

6 開催状況

【業界研究講義】



【スーパーエコタウン施設見学 東京臨海リサイクルパワー株式会社】



(事業概要説明)



(施設見学の様子)

【スーパーエコタウン施設見学 バイオエナジー株式会社】



(事業概要説明)



(施設見学の様子)

【スーパーエコタウン施設見学 株式会社タケエイ】



(事業概要説明)



(施設見学の様子)

【先輩社員との意見交換会】

2グループ（各社先輩社員・公社事務局）に分かれて意見交換会を実施しました。各グループにて、先輩社員との質疑応答や学生の感想の発表、先輩社員からのアドバイス等の議論を行いました。



(意見交換会の様子①)



(意見交換会の様子②)

【集合写真】



6 アンケート結果（抜粋）

皆様からいただいた主なご意見を抜粋してご紹介致します。

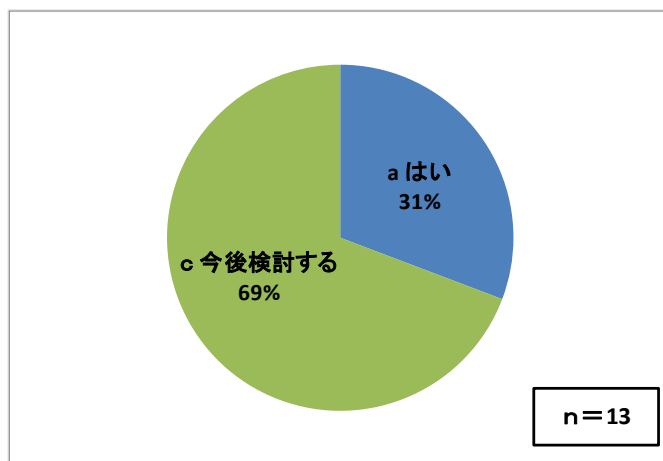
【見学会ツアーへ参加した理由】

- ・国際協力の授業で、中国が再利用のプラスチックの輸入を制限したため、日本など先進国のプラスチックの行き場がなくなっているということを学んだ。そこで日本において再利用はどのようになされているのか気になったから。また、フードロスへの問題意識があったから。
- ・現在、海外インターンシップの企画と運営を行っており、テーマを環境問題・ゴミ問題にしています。ヒントとなるような情報また会社とのつながりを得られればと思い参加しました。
- ・環境について興味があった。母が環境系の仕事をしていて、よく話をきいて処理場ではどのような事を行っているのか見てみたかった。
- ・大学の授業で環境問題やエネルギー関係の事を学び、それらに関連する事業に興味を持ったため。
- ・私の研究テーマと関連していて、施設などを見学したいです。
- ・環境業界に興味があり、資源循環の現場を見てみたかったから。
- ・上京する機会と今回の見学会の日程が上手くマッチしていたから。廃棄物には以前より興味があったが、何も具体的なことは知らなかったから。
- ・就職活動を来年に控え、環境、資源エネルギー系の一般企業を一つの選択肢になってます。今回のツアーでこの業界での働き方を実際に拝見し、イメージしたいと思いました。二つ目の理由として、大学のゼミ活動では環境系に所属しています。扱う問題は様々なので知識を得て、今後に活かしたいと思い参加しました。
- ・農業に関わるサークルに在籍しており、農作業等の体験をつむうちに、環境・自然の分野に興味を持つようになり、人間はどのようにして環境保全に貢献できるかを考えるようになったため。

【参考になった点】

- ・各会社が循環型社会を目指して、エネルギーや製品をつくられているということ。
- ・様々な分野・種類によって廃棄物の処理のしかたが異なり色々初めて知って勉強になった。
- ・処理している最中も電力を作ったり、そこで出たゴミを使って何かを作るといのはすごいと思った。
- ・若手社員の生の声を聞けたり、職場の雰囲気が分かって良かった。
- ・産廃の現状が良く分かった。意見交換会では就活のポイントも聞いた。
- ・実際に働いている若手職員の方からお話を伺うことができ勉強になった。一つの企業だけでなく、様々な企業の現場を見ることができ、資源循環が行われている現場のお仕事へのイメージが深まった。
- ・事業所の様子についてイメージを持てたこと。
- ・最終処分量が想像より小さく苦勞が偲ばれた。
- ・日々出続けているゴミが最終的にどうなるか、一連の過程を拝見でき、非常に参考になりました。
- ・資源として廃棄物を見ていたことが印象的であった。それぞれの企業の実態、例えば対象物や処理のプロセスは普通に生きていると分からないのでこれから意識すべきと考えるようになった。

【資源循環分野への就職の検討】



項目	回答数	%
a はい	4	31%
b いいえ	0	0%
c 今後検討する	9	69%
総計	13	100%

【大学生や大学院生に資源循環分野への資源循環分野のアピール】

- ・各企業がつくられている製品 (ex: エコフォーム、バイオマスの電気など) がとても面白いと思います。
- ・各企業での処理の様子の動画
- ・やっている仕事がどのように社会に役立っているか。
- ・リサイクルの before と after
- ・現状の危機感 (埋め立てられる残り) (ゴミの量など)
- ・仕事場の雰囲気を紹介したり、働く従業員の方の話を紹介したら関心が高まると思う。
- ・学生さんが常に行くところに雑誌やポスターなどでアピールする。
- ・資源分野だけでなく、企業の CSR という点で、多くの企業は環境について考えるべきであり、その点で大変参考になるということ。
- ・こういったツアーや講義を大学で行う。
- ・社員の方が、「様々な企業の方とお仕事できる点が魅力的である」とおっしゃっており、そのような点がアピールポイントだと感じました。
- ・ほとんど知らない分野だったので知名度が低いのもかもしれない。リサイクルの重要性は聞いたことがあっても実際の事業所のことはほとんど知らなかった。入り口は狭めてしまうかもしれないが大学との共同研究を多くして卒論等のテーマにすると気になる人が増えるかも。
- ・実際に自身で使った物が最終的にどうなるか、その過程を知ってもらうことが一番印象に残るのではないかと思います。また、今回のようにツアーを行うことが効果的だと感じます。特に外国人の方には日本の技術などに非常に興味があるのは知っているのです。
- ・自分たちと廃棄物または再利用品との近さをアピールする。例えば小売りでアルバイトをしている人たちや、イベントに関わる人たちも多いと思うので、こうしたゴミの実態と再利用品の存在を大学のイベントや研究室に行ってみせる。

以上